

内痔核硬化療法（ALTA）とは？

— 一切らずに治せるジオン注（四段階注射法） —

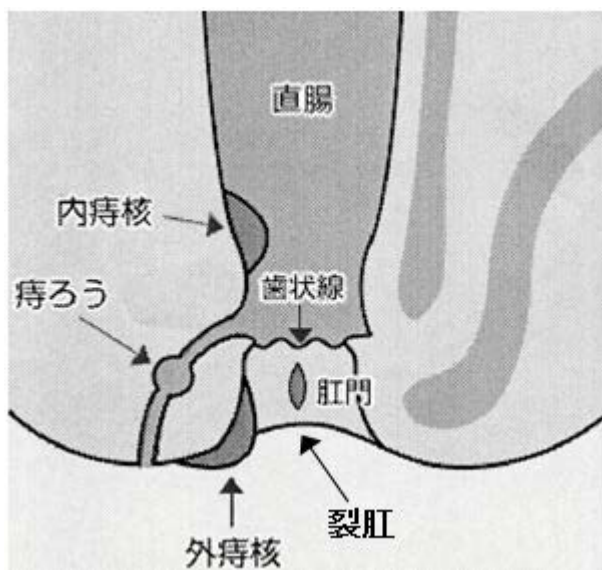
35-4 消化器科・一般・消化器外科（講師） 藤田 秀人

「日本人に3人に1人」。一般的にそう言われるほど、「痔」はとても身近な病気です。なのに、「おしりの悩み」はなかなか他人には聞けないもの……。

でも安心してご相談ください。内痔核硬化療法によって簡単に治療が受けられます。

1. 痔ってどんな病気？

多くの方が悩んでおられる痔。痔は大きく分けると、肛門付近にいぼができる「いぼ痔（内・外痔核）」、肛門の皮膚が切れる「切れ痔（裂肛）」、肛門の周囲から膿が出る「痔ろう」があります。その中でも最も多いのがいぼ痔で患者さんの5～6割を占めます。いぼ痔は、便秘などでいきんだ時に肛門に強い負担がかかり、肛門を閉める括約筋の内側にあって開閉を助ける粘膜下組織の「クッション」部分が腫れて生じます。直腸側にできると内痔核、肛門側にできると外痔核と呼びます。



2. 痔の治療方法

痔の治療には大きく分けて坐薬や軟膏による薬物療法と手術による切除があります。手術では傷が完全に治るまで約2週間から1ヶ月を要す場合がありますが、内痔

核硬化療法はジオンという薬剤をいぼ痔に注射することで簡単に治すことができ手術後の経過も1から2日でOKです。

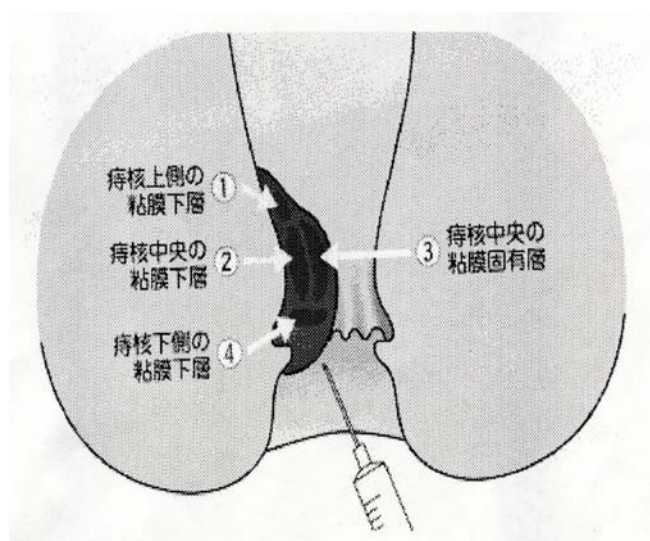
3. ジオン注（ALTA）とはどんな治療でしょうか？

ジオン注は硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸が含まれています。

「脱出を伴う内痔核」にたいしこの薬を注射し血液の量を減らし、痔を硬くして粘膜に癒着・固定させる治療方法です。

4. ジオン注の投与方法

ジオン注を1つのいぼ痔に4か所注射します。そのためこの治療法を四段階注射法とも言います。



5. ジオン注での治療後の経過

手術当日は麻酔の影響もありますので安静にします。麻酔がさめれば歩行を始め食事もとれます。翌日、肛門の状態を観察します。2～5日ほど退院できますが、副作用もありますので定期的に通院していただき肛門の観察が必要です。

痔の情報サイト

<http://zinjection.net/>

<http://e-zi.net>